＜平成 28 年度大阪府高等学校校外学習研究発表会開催概要＞

日　時:平成 28 年 6 月 10 日(金)15:10～
場　所:大阪府立大手前高等学校
発表校:大阪府立北摂つばさ高等学校
テーマ:「台湾竹東高級中学との交流」

平成 26 年 11 月、初めて台湾の高校を受け入れるまでの経緯と当日の生徒会による歓迎行事の内容、翌 27 年 12 月 2 日、2 度目の受け入れの取り組み内容などが報告された。ノウハウもなく全くの手探りの状態から始め、苦労や反省の中から受け入れに積極的に取り組んだ記録である。海外の学校の受け入れ、交流の経験がない学校には大いに参考になるであろう。

なお、北摂つばさ高校では 2 度目の受け入れ経験を生かし、今年は 6 月に修学旅行で台湾に訪れ、竹東高級中学と交流する。

【実施要領】
平成 27(2015)年度
■日　時:12 月 17 日(木)
■来校者:国立竹東高級中学(日本の高校生と同年齢)
　　生徒32名(男子 10 名、女子 22 名)、教員 3 名、添乗員 1 名(計 36 名)
■内　容:生徒会による歓迎行事
　　・授業交流
　　・部活交流
　　・1年生との交流

平成 26(2014)年度
■日　時:11 月 6 日(木)
■来校者:国立竹東高級中学(日本の高校生と同年齢)
　　生徒 36 名(男子 10 名、女子 26 名)、教員 3 名、添乗員 1 名(計 39 名)
■内　容:生徒会による歓迎行事
　　・授業交流
　　・部活交流

◎台湾修学旅行
　日　　程:平成 28(2016)年 6 月 21 日(火)～6 月 24 日(金)　3 泊 4 日
　参加人員:9 期生 2 年生 267 名、教員 14 名
　目　　的:現地の高校生と直接交流することで、コミュニケーション力を伸ばす。
　　同世代の学生がどのような生活を送っているか体験し、今後の学校生活の充実をはかる。

※詳細:月刊「教育旅行」2016 年 9 月号掲載

台湾國立竹東高級中學を迎えての交流

首席　川村　顕

大阪府立　北摂つばさ高等学校

●学校紹介

本校は大阪府立茨木東高等学校と大阪府立鳥飼高等学校が「府立高等学校特色づくり再編整備計画」により統合整備され平成19（2007）年4月1日に大阪府立北摂つばさ高等学校として開校。多くの特色をもつ普通科総合選択制の学校である。

今年で開校10年目を迎える。生徒数820名、教職員68名。

本校は「なりたい意欲を学力に」「調べ、考え、わかちあう」「フルバリューの環境」の3項目を教育理念として「人間力」を伸ばすことを目標としている。この目標を実践するために普通科総合選択制の特色である「学び探究」「国際理解」「保育・福祉」「生命・エコロジー」「情報とくらし」「アート」「スポーツ」の7つのエリアから自分に合ったエリアを選択し、日々の教育活動に励んでいる。

校舎外観

実施要項

平成26(2014)年度
- ■日　時：11月6日(木)
- ■来校者：國立竹東高級中學(日本の高校生と同年齢)
  - 生徒36名(男子10名、女子26名)
  - 教員3名、添乗員1名(計39名)
- ■内　容：生徒会による歓迎行事
  - 授業交流
  - 部活交流

平成27(2015)年度
- ■日　時：12月17日(木)
- ■来校者：國立竹東高級中學(日本の高校生と同年齢)
  - 生徒32名(男子10名、女子22名)
  - 教員3名、添乗員1名(計36名)
- ■内　容：生徒会による歓迎行事
  - 授業交流
  - 部活交流
  - 1年生との交流

交流が始まった経緯

「人間力育成」を教育目標とする本校はあらゆる出会いから自分の力を伸ばすための取り組みをしている。その実践として、平成26（2014）年、27年の2回にわたり「台湾國立竹東高級中學」を迎えて交流をすることになった。それまで本格的な国際交流の実績がなかった台湾國立竹東高級中學を迎えることになったきっかけは、平成26年7月、海外の学校との交流をコーディネートしている公益財団法人「大阪観光局」から大阪の学校と交流を希望する情報が校長宛に提示されたことに始まる。

この件に意欲を見せた校長が大阪観光局と調整をした結果、11月6日（木）に台湾國立竹東高級中學の生徒を本校に招いて交流を行うことになった。内容は「生徒会による歓迎行事」「授業交流」「部活交流」である。この決定事項を受けて国際交流委員会と生徒会が動き出したのが、10月中ごろ。交流実施日まで1ヶ月足らずであった。

記念撮影

●重点を置いた活動

「何かをやってみよう」という発想と「実践する力」

どのように受け入れ態勢を整えたか

竹東高級中學の本校訪問まで時間がない中、国際交流委員会と生徒会で交流準備を始めることになった。本校の国際交流委員会はもともと海外への語学研修を企画立案する組織であり、海外の学校を受け入れるノウハウを持っていたわけではない。また、生徒会も校内行事の運営には長けているが海外の学校の歓迎行事をするのは初めての経験だった。

このように多くの課題を抱えて、初めての交流を短い期間で準備を始めることになった。後期生徒会執行部が発足して最初の生徒会執行部会が10月21日に開かれた。この時点で、「挨拶」「オリエンテーション」「歓迎行事」を生徒会が運営することが決まっていた。

以下は当時の執行部会のやり取りである。

生徒「交流の日程はいつですか？」
教員「11月6日です。」
生徒「再来週ですか！？」
教員「嬉しそうで何よりです」
生徒「日本語通じるの？」
教員「たぶん通じないよ」
生徒「通訳の人がいるんじゃないの？」

このようなやり取りの中、会議が進み受け入れ準備をしたのである。この会議の後、当時の生徒会長は一つの考えを持っていた。

「でも、通訳任せの交流でいいのかな……せっかく、来てくれるのに」

「せめて、日本らしいお出迎えがしたい！」この考えの基、日本らしいお出迎えで本校にできることとして思いついたのが、書道部が得意としている書道パフォーマンスである。

書道は日本の誇る文化であり、パフォーマンスともなると見て楽しむことができる。交流当日、この書道パフォーマンスは大成功となり、感激した校長徐文淞が、是非持ち帰りたいと希望。今でも竹東高級中學の校長室に展示されている。

11月6日（木）いよいよ竹東高級中學を迎えての交流が始まった。生徒会の歓迎行事とともに午前中は普通科総合選択制の特色であるエリア授業での交流、午後は部活交流が行われた。エリア授業は「工芸エリア」「書道エリア」「音楽エリア」「福祉エリア」「スポーツエリア」で授業交流が行われ、人懐こい本校の生徒はいつもにも増して歓迎の気持ちを高めてくれ、大いに交流を楽しむことができた。

このもてなしに竹東高級中學の生徒たちも

大好評だった書道パフォーマンス

満足そうであった。心配された意思疎通も片言の英語と身振り手ぶりでコミュニケーションをとっていたのは高校生らしくほほえましくもあった。

さらに特筆すべき点として生徒会長が工夫したことがもう一つある。彼女はなるべくわかりやすい言葉を英語に翻訳して挨拶をしたのである。その理由として「台湾ではだいたい英語が通じるが、流暢なのは大学生以上が多い。」「高校生年齢はできるだけ簡単な言葉のほうが通じやすい。」との情報をあらかじめ調べていた。こうした彼女のきめ細かい準備が台湾の高校生に受け入れられたのは言うまでもない。

生徒会長によるあいさつは英語で

1回目の交流から得たこと

普通科総合選択制のエリア授業は相手の立場に立って物事を考える習慣を身につけることができる。この習慣があったので、短い準備期間であったが、その時に考えうる最善のもてなしができたと思う。また生徒会執行部は日頃から自分の意見を表す機会を設けており、生徒が自主的な活動ができる場である。こうした本校の教育姿勢が1回目の交流を成功に導いた。しかし一方で多くの反省点も浮かび上がってきた。

《国際交流委員会》

＊交流を運営する組織として整備されておらず交流希望のエリア、部活の調整がスムーズにできなかった。

《生徒会執行部》

＊名札や名刺を用意しておけばよかった。…台湾の生徒たちはみんなネームカードを持っていて配っていた。

＊贈る「お土産」的なものを用意しておけばよかった。…相手は大量に贈り物をくださり、恐縮した。

＊自由時間（個人的に交流する時間）がほしかった。…用意していたゲームをやる時間がなかった。

＊事前に言葉を勉強しておけばよかった。

心のこもった手作りのプレゼント

加えて、メールアドレスやLINE交換も頻繁に行われていた事も想定外であったが、竹東高級中學の生徒会長のメールが27年度の交流の一助になったのである。彼は日本が大好きでアニメや動画から独学で日本語を学んでいる、大の親日家である。その彼からぜひ次回も北摂つばさ高校と交流がしたいとのメールが生徒会担当教師に送られてきたのである。このメールをもとに27年度の交流も行われることになった。

竹東生も日本語を交えてあいさつ

1回目の反省をもとに 2回目の交流へ

平成27年は、年度当初から竹東高級中學との交流を視野に入れた活動をした。この年に入学した9期生は修学旅行の行き先を前年の交流で縁のできた台湾に決定した。その事前準備として竹東高級中學との交流会に9期生1年生が参加することを検討した。前年度と変わり新しい体制として次の3つの役割分担を行った。

《国際交流委員会》→交流全体の運営

《生徒会執行部》→歓迎行事の企画

《9期生1年生》→修学旅行の事前学習とし

ての交流。こうして12月17日の交流に向けて準備をすることになった。国際交流委員会は授業見学、部活見学の調査と受け入れ名簿の作成。大阪観光局とのメールのやり取りを行い、直前まで受け入れ態勢を整えた。前年度も活躍した生徒会は後期の執行部会を10月27日に開いた。

以下、会議のやり取りを紹介する。

生徒「今年も無茶ぶりですか?」

教員「大丈夫、今年は12月17日です。」

生徒「去年なんか、2週間後でしたからね～」

教員「さあ、会議を始めよう!」

ここで前年度の反省を振り返り生徒会執行部がどのように考えたかを紹介しよう。

☆贈る「お土産」的なものを用意しておけばよかった…相手は大量に贈り物をくださり、恐縮した。→文化の違いもある。相手は旅行中なので、量よりも気持ちのこもった邪魔にならない物がよい

☆事前に言葉を勉強しておけばよかった。

→1年代表挨拶は中国語で準備。交流会司会は全編英語で。この方針を受けて、お土産は家庭科部がパスポートケース。美術部がストラップをそれぞれ手作りし、竹東高級中學の生徒に手渡しして、大変喜ばれた。

1年生は生徒代表による中国語での挨拶の練習。これは何回も繰り返し練習が行われ、当日は難しい中国語の発音をマスターして立派な挨拶をすることができた。全員合唱として「世界に一つだけの花」を指揮・ピアノ伴奏ともに生徒の手で行った。

1年生による中国語のあいさつ

こうしてこの年の交流は前年度同様、生徒会の歓迎行事に始まり午前中にエリア授業での交流。午後は部活交流に先立ち1年生全体による交流行事が行われた。英語での司会は大変流暢なものであり、聞いていた1年生に「高校生ってすごい!」と思わせることとなった。このように一つの物事に懸命に取り組んだ生徒の感想を紹介しよう。

「何かを自分の言葉で伝えたいという想いが英語を身に付ける原動力になるんだと感じた。」「誰かに教えてもらうことも大事だが、まず自分が学ぼうとすることの方がもっと大事だと身をもって分かった。」「あらためて授業って大切だと思った。」

さらに2回目の歓迎行事でも書道パフォーマンスが行われ、大好評であったことも付け加えたい。今回も竹東高級中學の生徒は好意的であり、お返しとして、日本ではやりの「ようかい体操」と「ピアノ演奏」を披露してくれ、お土産もたくさんいただき、友好的な交流を行うことができた。

ここで交流全体を通した生徒の感想を紹介する。「相手を思いやることが日本人の美徳のひとつだと感じた。」「相手を知ろうとすることで、あらためて自分たちの文化を知ることができた。」

9期生2年生が台湾修学旅行へ

■行き先：台湾（台北）

■日程：平成28（2016）年6月21日（火）～6月24日（金）3泊4日

■参加人数：9期生2年生267名、教員14名

■目的：現地の高校生と直接交流することで、コミュニケーション力を伸ばす。また、同世代の学生がどのような生活を送っているか体感し、今後の学校生活の充実をはかる。

修学旅行中の6月23日（木）に竹東高級中學を訪問した。オープニングセレモニーはオーケストラ演奏、カラーガードの演技に始まり、本校はダンス部の演技、2年生全員で「365日の紙飛行機」を混声3部合唱で披露した。

このような盛大な開会式のエンディングでサプライズが起こった。なんと竹東高級中學の生徒が立ち上がり、北摂つばさ高校の校歌を全員で大合唱してくれたのである。このことは多くの感動を生み本校の生徒の一人は「学校の校歌を他校の生徒が、しかも国を超えて、言葉の壁も越えて覚えてくれたというのはとてもうれしかった。私の周りからも驚きの声が多数あがっていた」と感想を述べている。

竹東高級中學を迎えて2回の交流。修学旅行で竹東高級中學へ出向いての交流。一つの取り組みがこうして多くの成果となり発展することができたのは「何かをやってみよう」という発想とそれに向かう「人間力」である。これからもこうした気概をもち、豊かな考えを持つ生徒とともにチャレンジし続けたい。